

京都教育大学 F D ニュース

No.90

2020年1月30日

京都教育大学 F D 委員会

本学における F D 活動の一環として実施しております「授業アンケート」へのご理解とご協力を感謝申し上げます。

今回の F D ニュースでは、2019 年度教育学部前期授業アンケート結果及び第 1 回 F D 研修会（京阪奈三教育大学 F D 交流会）について報告いたします。

1. 2019 年度教育学部前期授業アンケートについて

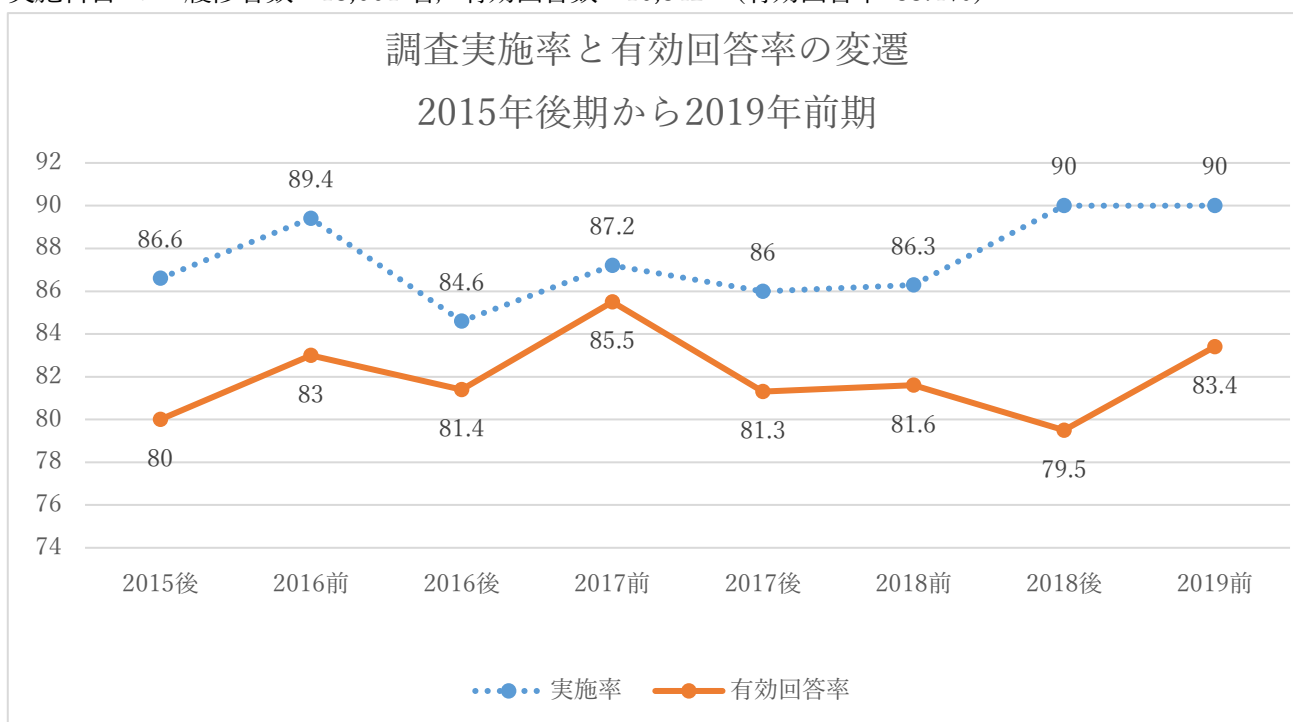
1. 調査の概要

実施期間：2019 年 7 月 11 日（木）～8 月 2 日（金）

対象科目：受講登録者 6 名以上の全授業科目

対象科目数：361，実施科目数：325（未回収 36 実施率 90.0%）

実施科目のべ履修者数：13,001 名，有効回答数：10,842（有効回答率 83.4%）



2019 年前期は、高い実施率を保ちながらも、有効回答率が増えており、積極的にアンケートに取り組んでいただいた結果が示されている。昨年度同時期比で実施率が 3.7% の増加、有効回答率が 1.8% の増加だった。

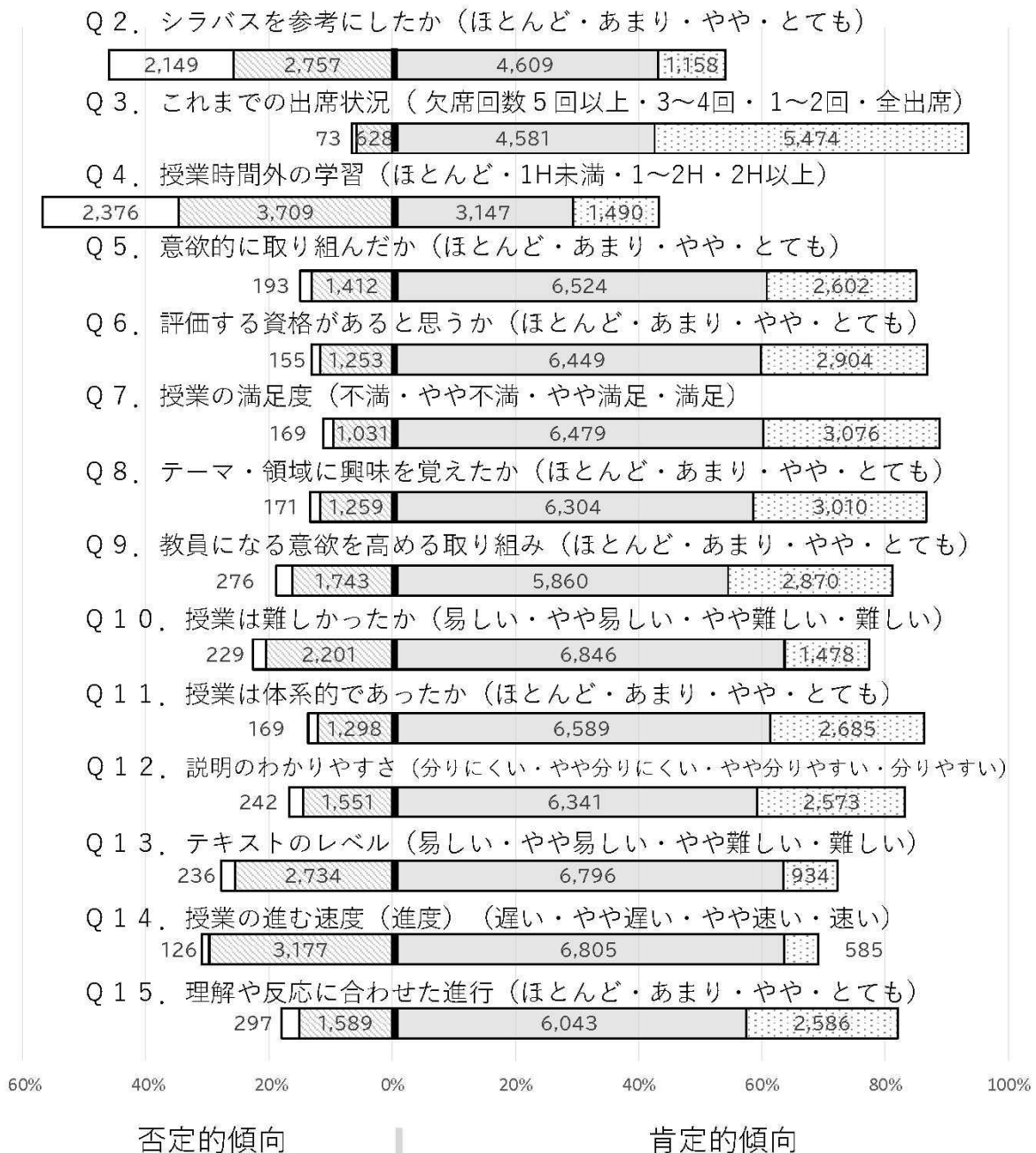
未回収 36 件のうち、15 件が昨年度と同じ授業名であり、依然、実施が難しい授業が一定数存在するといえる。同名で複数クラスが存在する授業においては、全てのクラスで未実施というものは無い。この件について過去数回分を精査したところ、同じ授業ではなく同じ担当者による未回収状態が続いている状況が見えてきた。過去 1 年分（前回と今回）について、未回収授業を 4 つ以上担当している者は 6 名（いずれも常勤）であり、年間未回収授業総数 71 の内の 31（43.7%）を占めている。

2. 結果の概要

(1) Q1. の「授業を選択した動機について」の回答は、「興味・関心」約 26%、「必修」約 60%、「人の薦め」約 4%、「空き時間だから」約 5%、「容易そう」約 1.6%であった。複数回答ができる Q1. については、アンケートの有効回答数(10,842)と本設問の回答総数(11,450)の差が 5.6%であったので、ほとんどの学生は選択肢のうち 1 つのみにチェックを入れたと考えても差し支えないといえる。

(2) Q2. ~Q15. についての結果を以下にグラフで示す。

Q2~Q15 全体回答の帯グラフ (有効回答数 = 10,842)



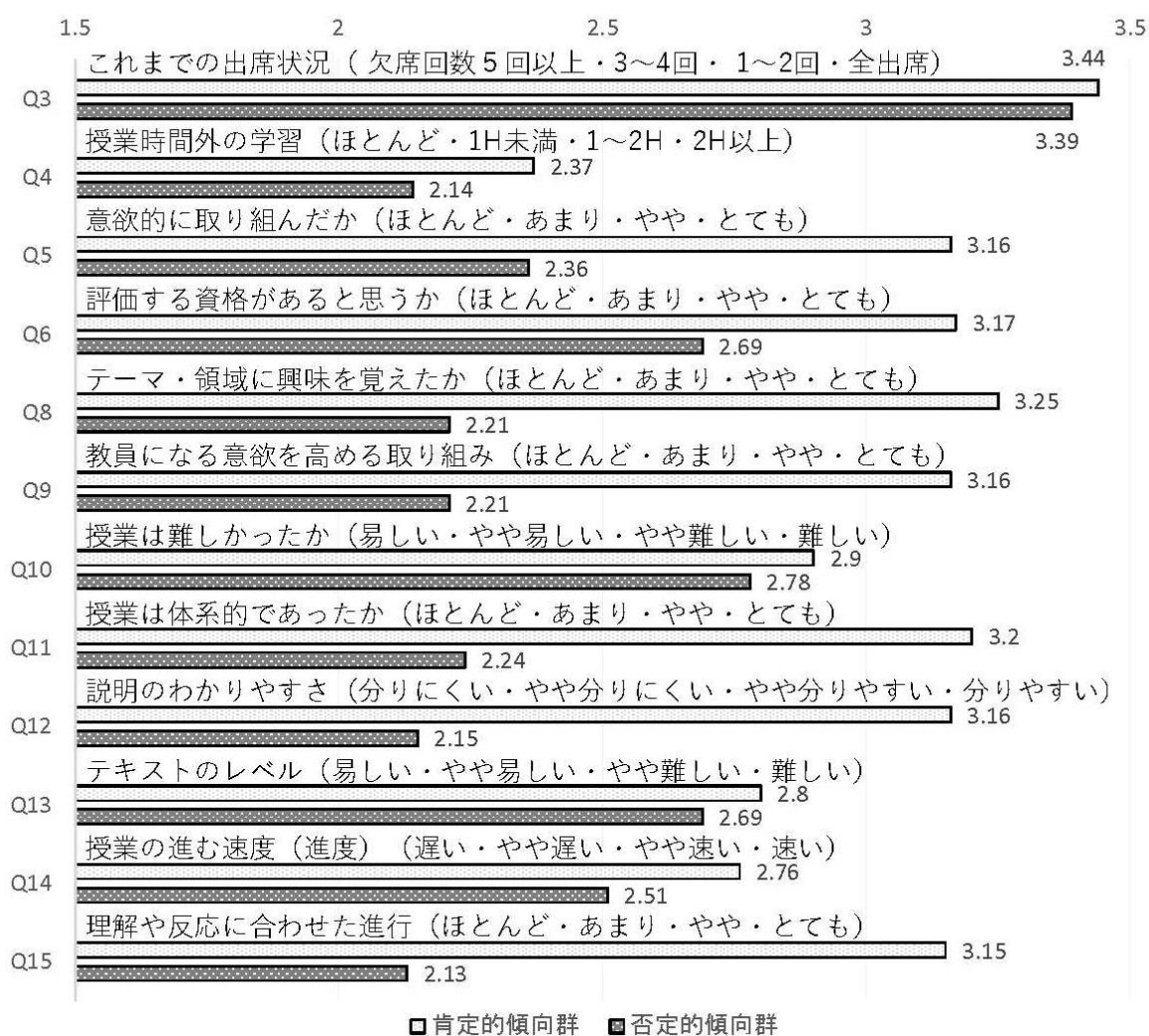
※無回答は含まれておりません

回答全体としては概ね肯定的傾向にあると言える。2018年度前期から変更された質問項目「Q9. 教員になる意欲を高める取り組みが行われていたか」については、昨年度と同じく約8割が肯定的な回答であった。「教職」を意識した授業が実施されていると考えることができる。Q2、Q4については、肯定側へと回答をシフトさせるための積極的かつ継続的な取り組みが必要といえる。前回実施の2018年度後期アンケートと比べると、シラバスを参照した学生が57.2%に対して54.0%に、時間外学習については46.9%に対して44.2%と、前期の方が肯定的意見が少ない傾向が出ている。この2項目を肯定傾向に向かわせる取り組みについて、FD研修会等を通して皆様と共有できればと考える。

(3) 受講満足度グループ別の回答平均分布

2019年度前期 Q7. 授業の満足度について、回答全体を「肯定的傾向群」(「満足④」「やや満足③」と「否定的傾向群」(「やや不満②」「不満①」)に分け、他の項目とのクロス集計を行った結果を示す。

Q7.授業の満足度 とのクロス集計



「3.出席状況」「10.授業の難しさ」「13.テキストのレベル」「14.授業の進度」は満足度に影響がない。

「12.説明のわかりやすさ」「15.理解や反応に合わせた進行」など授業実践の評価は満足度への影響が大きく、「11.体系的かどうか」も、シラバスを参照にしていない学生が授業実践と捉えているようである。

「興味・意欲」に関する設問 Q.5,8,9 も満足度に結びついている。

「興味」「意欲」は「満足」との関連が強いため、満足度を高める工夫は、学生の主体的な学びにつながるものと考えられる。そして授業実践は、その助けとなることが求められている。

授業実践の工夫は、学生を積極的な学びへ導きます。FD 研修会は、満足度の高い授業での取り組みを紹介することにより、皆様の授業実践の一助となるようなものでありたいと考えております。FD 研修会への積極的なご参加（ご利用）をよろしくお願いいたします。

2. 2019 年度第 1 回 F D 研修会・京阪奈三教育大学 F D 交流会

「発達障害のある学生への対応について」

－発達障害についての基本的な紹介と発達障害のある学生への対応について－

講師：発達障害学科 佐藤 美幸 准教授



令和元年 12 月 4 日（水）13 時から 14 時 20 分まで、F16 講義室において、本学の第 1 回 FD 研修会、京阪奈三教育大学 FD 交流会を開催いたしました。今回は、本学発達障害学科の佐藤美幸准教授に、「発達障害のある学生への対応について」－発達障害についての基本的な紹介と発達障害のある学生への対応について－というテーマでご講演いただき、本学からは 70 名、三教育大学（京都・奈良・大阪）合計で 121 名の先生方が参加いたしました。

研修ではまず「専門的対応の必要性」が取り上げられました。

発達障害を抱えながら病院や学生相談に行きたがらない学生から受けた相談に対しては、「（発達障害に関する内容の相談については）専門家以外は力不足であり、あなたのためにならない」「定期的な個別面談（カウンセリング）はできない」ということを最初に明確に伝えておくことを話されました。発達障害に関しては、専門的機関で正しい知識に基づいて応対していくことが望ましいこと、そのために大学教職員にできる（専門外の）対応として「（相談）窓口の一本化」「合理的配慮」を挙げられました。

次に「合理的配慮」が取り上げられました。

「障害者差別解消法(2016 年 4 月施行)」の中で、国として差別解消推進をしなければならないこと、国民は差別解消推進の努力をしなければならないことが明記されていることを確認しました。そして、この差別とは「合理的配慮をしないこと」と同義であり、例えばセンター試験では「別室受験」や「試験時間の延長」など様々な対応が取られていることを説明されました。これらの対応が本当に必要であることを研修の参加者に



説明される時には、ご自身の育児の中で体験された「京都駅でのベビーカー移動」を例に、自身が体験して初めてわかる必要性についてお話しされました。

続いて「発達障害の特徴」が解説されました。様々なパターンの障害について、それぞれに具体的な例をあげつつ、参加者に ADHD の疑似体験をしてもらうなどの工夫された講演内容は、参加者の大きな関心を誘っていました。また、「合理的な配慮」の具体的な方法として「環境調整」や「リマインダーなどのアプリケーション」を紹介され、専門的対応ができない人にもできる範囲の配慮について言及されました。

最後に「合理的配慮をするためのコミュニケーション」について述べられました。「否定をするとコミュニケーションが成立しない」という説明では「気にしすぎ」「もっと頑張れ」「そんなことないよ」「大丈夫でしょ」

「何で?」「努力しなさい」という言葉が提示され、何気ない会話の中に潜む否定的なニュアンスの声かけが多数存在することを説明されました。また、提案に対する考え方として「いいですね。でも…なので、できません。」ではなく「いいですね。では…なので、こうしてみましよう。」という方法を紹介されました。佐藤先生の豊富な講演経験に裏打ちされた充実した内容に、参加者からは大きな拍手が送られました。

最後に、ご参加いただいた先生方からのご意見の一部をご紹介します。

- ・これから必要なテーマであると考えられるので説明の内容がとてもわかりやすく参考になるものでした。
- ・これまで学生を指導する場面で上手くいかなかった時に自分のコミュニケーションの選択肢が少なく、状況が改善されないことがあったため。さまざまな特性を持った人たちへの根本的な姿勢について知ることが出来、さっそく体現していきたい。(自分自身の特性についても客観的に知ることが出来たことも大きな収穫でした。)
- ・合理的配慮の正しい解釈について知ることができました。物事を肯定的にとらえること「じゃあ」は魔法の言葉です。
- ・ADHD や LD を疑似体験してみるという試みは参考になりました。「障害で困っている」学生と「単にさぼっている」学生に対しては指導の方向がだいぶ異なると思いますが、見た目は区別がつかないのでどのように対応すべきか難しいと感じました。

上記のご意見に加えて、

- ・プライバシーに関わらない程度に実際の対応例など教えていただけるとよかった。
- ・合理的配慮が必要な学生がクラスに混在する場合の成績等の評価について知りたくなった。
- ・もしできるなら、うちの大学ではこのようにしているとかの話も聞きたい。
- ・当該学生だけではなく、周りの学生に対してどのような働きかけをすべきなのかについてももう少し知りたかったです。
- ・この内容に関連したFDを実施していただきたい。

など、より一層深い理解を望むリクエストの声もありました。

すべての教職員にとって「発達障害のある学生への対応」について、正しい理解が求められており、この内容を取り上げた本FD研修会が、皆様の活動にとって有益となれば幸いです。

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：太田（委員長）、小松崎（副委員長）、東村、藤岡、山口
（事務担当：河原田、山本、村田）